



北海道新篠津高等養護学校

コミュニティ・スクール通信

令和5年12月15日
北海道新篠津高等養護学校
学校運営協議会事務局

北海道新篠津高等養護学校は令和2年度よりコミュニティ・スクールを導入しています。これまで、新型コロナウイルス感染症の影響により協議ができていませんでしたが、今年度は、計画通り第1回、第2回の協議会を実施し、導入以来、初めて討議の場を持つことができました。2月中旬に今年度3回目の協議会を予定しています。

地域とのつながりをより一層強め「地域とともにある学校づくり」を進めていきます。

令和5年度 学校運営協議会委員

会長	原田 志郎	新篠津村社会福祉協議会 会長
副会長	窪田 秀幸	新篠津村教育委員会 教育次長
委員	磯貝 隆之	北翔大学 教授
委員	工藤 孝史	新篠津村商工会 会長
委員	今田 義春	新篠津交通 代表取締役、今田自動車商会 代表取締役
委員	板垣 清志	社会福祉法人新篠津福祉会ふれあいの苑 施設長
委員	市川 英俊	新篠津村農業協同組合 専務理事
委員	佐藤 千佳	新篠津村生涯学習委員会 委員長
委員	松永 厚美	新篠津村スポーツ推進委員会 委員長
委員	清水 あゆみ	北海道新篠津高等養護学校、進路・卒後支援振興会 会長
委員	前田 千鶴	北海道新篠津高等養護学校 P T A会長
委員	立田 俊治	北海道新篠津高等養護学校 校長

(敬称略)



第1回・第2回 各回の内容

第1回学校運営協議会

6月26日(月) 10:00~11:30 本校視聴覚室

校長から学校経営方針について、各担当から新篠津高等養護学校の新しい教育課程やICT活用状況、寄宿舍生活などについて委員の皆さんに説明をしました。また、校内を見学し生徒の活動を直接見ていただきました。

委員の方々からの意見等

- ・前任の校長の方向性を引き継いだ学校経営方針で、前向きに取り組むことを期待している。
 - ・コロナ前、昼休みに読み聞かせグループで来校し、読み聞かせを行っていた。再開を検討してほしい。
- など

第2回学校運営協議

11月15日(月) 10:00~11:30 本校視聴覚室

校長から学校経営状況について説明。各担当から進路指導の状況、演劇部の活動などについて委員の皆さんに説明。また、校内の施設・設備について見学していただきました。

その後、2班に分かれ、「新篠津高等養護学校に期待すること ~アフターコトにおける学校の地域貢献~」、「学校・地域の双方向の交流について」の2つのテーマで討議を行いました。たくさんの素晴らしいアイデアが出され、両班ともに盛り上がった討議となりました。

討議の場に出された意見・アイデア

(地域へのアピール)

- 各学科製品のクオリティの高さをもっと広く地域に広報。
- 地域に向けた学校祭の展示や販売のPR。

(地域の資源を利用した学習・地域と連携した学習)

- 役場や村の施設や店舗で製品販売会やカフェを開催。
- 商工会の会員の飲食店などと連携して、空き家を利用したチャレンジショップを企画・実施。
- 地域産業(農業)への支援→農家での現場実習。
- 村の施設の窓などの清掃。
- 村の方々から、絨毯クリーニング、カークリーニングの教材を提供してもらう。
- 村の子ども(園児、児童)に椅子や食器、エプロンをプレゼント。
- 子育て支援(教室)への参加(お兄さん、お姉さんとして)。
- モルック大会などスポーツを通して、村の小、中学校との交流。
- 生徒が村の良さを調べ、アピールするポスターやネットサイトの制作。
- 村内を歩くことで、「防災」について考える学習。
- 村の天文台で星空見学、しのつ湖を活用した学習。(カヌー体験、クリーンデー参加など)

(地域イベントへの参加・協力)

- 青空まつりへの出店だけではなく、一緒に手伝ってほしい(商工会は高齢化、人手不足の状態)。
- 青空まつり 中央自治区では山車の引き手がないので、学校に手伝ってもらえるとうれしい。

(教職員の地域貢献)

- 学校教員が、村内の障害者施設で「知的障がい」について、出前授業として講義してほしい。
- 教職員の特技をいかした講座の開設。

(学校施設の活用)

- 学校施設を避難場所として開放 → (学校の隣りにある)障害者施設2階が避難場所となっているが、居住空間でもあり狭く、心許ない。

(クラウドファンディングの活用)

- 演劇部の支援にクラウドファンディングを活用。
- 生徒の頑張りが「道具やお金がない」で終わらせないためにクラウドファンディングを活用。
- アイデアで終わらせず、ぜひ1つでも実現を！ → 実現のためには、クラウドファンディングという手もある。

(学校運営協議会への意見)

- 地域の願いや課題を運営協議会で取り上げて方向を考えるなど、運営協議会が主体となり、地域づくり、地域貢献、地域行事などを考えたり、実行しては…(やってあげる、やってもらうという関係でなく)
→ 協議会の各委員が何をやるか までを決めることが、願いや課題解決の実現に効果的である。

